

福井

「福井全研ニュース第 5 号」

「ぽ〜れぽ〜れ 3 月号」福井県版特別号

発行日 平成 30 年 3 月 25 日
 編集・発行 公益社団法人 認知症の人と家族の会 福井県支部
 事務局 〒910-0017
 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内
 TEL : 0776-28-2929 FAX : 0776-63-6756
 E-mail: monowasure@fmatsubara.com

ヒストリー福井 第 3 章「明智光秀の再起の地 福井」

第 2 章で紹介した「織田信長」。第 3 章は織田信長にとっても関係のある「明智光秀」を紹介します。

明智光秀は美濃の戦国大名齊藤道三に仕えますが、道三を倒した齊藤義龍に攻められ越前に逃亡します。

光秀が 35 歳の時に加賀の一向一揆が越前に襲来した際、朝倉軍に与し、朝倉軍の勝利に貢献。これを機に朝倉義景の客臣として一乗谷に迎えられたのです。

その後光秀が 40 歳の時に朝倉氏に見切りをつけ、織田信長の家臣となります。

織田信長の越前再侵攻の際、光秀がかつて住み過ごしていた福井市東大味の西蓮寺に対し、光秀が柴田勝家に依頼し、安堵状が出されました。この「安堵状」のおかげで西蓮寺は保護され、住民は無事に生活できたと言われています。



明智光秀公

地元住民は光秀の思いに応えるように毎年、命日の 6 月 13 日に法要を行い、光秀の遺徳を偲んでいます。

ヒストリー福井は暫く戦国時代を中心にお伝えする予定です。お楽しみください。



光秀が居を構えた東大味（一乗谷朝倉氏遺跡の南西）。その屋敷跡に、光秀を祀る「明智神社」があります。
 三女、玉（後の細川ガラシャ）もこの地で生まれています。



朝倉氏遺跡は某携帯キャリアのCMで白いお父さんが来てくれました。福井駅から車で 20 分ほどです。



「いざ！！全研へ！！」

「IT を駆使し、ZOOM 会議始動！！」

昨年の 6 月に福井全研のキックオフミーティングが開催され、早くも 9 か月が立ちました。全研の打合せをしたいけれども、なかなか時間が合わなく歯がゆい思いをしていました。そこで登場したのが「ZOOM 会議」。インターネットを使用し、テレビ会議を行います。これだと物理的な問題は解消され、現在毎週木曜日と日曜日に 1 時間半ほど会議を行っています。

会議の内容は開催要項について、現在の進捗について、ポスター広告についてが、現在のメイン議題です。開催が近づくにつれ、この会議は活発になるものと思います。これも IT を使用した「働き方改革」なのでしょうか。

時間は夜の 8 時からなので、夕ご飯を済ませ自宅での会議参加になります。当初は物珍しいのか、参加者のお子さんが乱入したり、ワンちゃんが聞いたことのない声に驚き吠えたり、途中で画面が消えたりとありましたが、現在はこの「ZOOM 会議」を最大限使いこなしています。もし、「ZOOM 会議」について興味のある方は福井県支部までご連絡下さい。



福井の味 第一弾「ソースかつ丼」

全研ニュース第 3 号から「福井のグルメを紹介します」といったものの……。大雪に見舞われ、業務に追われ……。と今まで掲載できなかった言い訳になりますが、ようやく紹介ができます。第一弾は福井県のソウルフード「ソースかつ丼」です。ソウルフードとはその土地で長年親しまれている県民食みたいなものです。

福井県にソースかつ丼が登場したのは、大正時代です。高畠増太郎氏がドイツ・ベルリンの日本人倶楽部で 6 年間の料理研究を終え、明治 45 (1912) 年に帰国。ドイツ仕込みのウスターソースを日本人向けに創案し、翌年の大正 2 年に東京で開かれた料理発表会にて日本で初めて披露したのが「ソースカツ丼」です。その後 1913 年に東京都早稲田鶴巻(現在の新宿区)に開業後、関東大震災が起きた 1923 年に福井に移転し、「ヨーロッパ軒のソースかつ丼」として、長年福井で愛されている味です。



「ヨーロッパ軒総本店」は全研でお越しの際に利用されるホテルの近隣になると思いますので、是非甘いソースを堪能してください。

介護独楽吟 大大・大募集

「介護独楽吟」って何? No3

幕末の福井の歌人・国学者の橘曙覧は清貧に甘んじ家族との生活の中に喜びや楽しみを見出し、「たのしみは」で始まり「する時」で終わる歌 52 首を詠み歌集「独楽吟」として残しました。

福井県ではこの「独楽吟」が普及しており、先日「平成独楽吟」の表彰が福井市役所で行われました。

第 22 回平成独楽吟の最優秀賞は

「たのしみは三代目の養子（こ）の雪つりに夫（つま）と似てきた姿見しとき」 でした。

受賞者の方をみると北は北海道から南は熊本県まで全国からの応募があったようです。

認知症の人と家族に対する理解と支援を多くの皆さんに求めるため私どもの「介護独楽吟」を全研会場だけ手なく福井市内の公共機関等に掲示させてもらいたいと考えています。

多くの皆様から「介護独楽吟」を福井県支部にお寄せいただきたいと思います。

※ 独楽吟はあまり形式がなく、みなさまに親しみやすいものと思います。ぜひ日記感覚で筆を執っていただけたらと思います。

送付先 認知症の人と家族の会福井県支部事務局

〒910-0017 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内

FAX : 0776-63-6756 E-mail monowasure@fmatsubara.com

介護独楽吟

福井県支部世話人

たのしみは遠くに我の姿見て

目じりの下がる顔を見る時

介護職員 五十代男性

たのしみは下の世話してありがと

小さな声で言うを聞くとき

妻の介護十五年 七十代男性

たのしみは家族つどいし旅先で

近しき仲になりしその時

介護専門職女性 六十代男性

たのしみはレシピ片手の一皿に

美味いと箸をせかされる時とき

妻の介護中 六十代男性

たのしみはさげしまされし君の笑顔

猫と戯れ垣間見る時

妻の介護中 六十代男性



運営委員の声

「福井全研に参加する事を今の目標となっているので、全研ニュースを自宅に郵送してほしい」とお便りが福井県支部に届き、福井県世話人全員が勇気をもらいました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。ぜひ福井全研でお会いする事を楽しみにしています。福井全研を楽しみにしてください。

感謝

**福井全研プレイベント? 申し合わせたかのように「当事者の声」
 そして、ドクター六郎がやってくる「認知症の基礎知識—2025 年に向けて」**

<p>平成29年度福井県 キャラバン・メイト交流会 のご案内</p> <p>福井県はキャラバン・メイトの力のおかげで、県民の暮らしが「認知症フリー」の社会が実現しています。皆さんの力を借りながら、認知症、暮らしを多くの人に知ってもらい、サポートしてあげたい。これから活動したいという方もぜひご参加ください。</p> <p>日時：平成30年2月10日(土) 場所：福井大学 文京キャンパス 19:00-17:00</p> <p>第1部 12:00-14:30 「当事者の力を活かして地域で生きていく」 近藤 英男 氏</p> <p>第2部 14:30-17:00 「認知症と生きる」 伊藤 俊雄 氏</p>	<p>認知症の新時代が やってきた!</p> <p>2018 2・28(水)</p> <p>13時00分 13時30分 15時30分</p> <p>山田 真由美 氏 伊藤 俊雄 氏</p> <p>「認知症とともに生きる～ 当事者の声からはじめる町づくり」</p> <p>スピーカー 伊藤俊雄さん (認知症当事者 宇治市在住) 伊藤元子さん (ご家族 宇治市在住) 佐本敬子さん (認知症コーディネーター 宇治市福祉サービス公社)</p>	<p>福井市認知症講演会 若年性認知症の本人から わたしの想い そして伝えたいこと</p> <p>山田 真由美 氏</p> <p>2018年 3月3日(土)</p> <p>14:00-15:30</p> <p>福井県自治会館 多目的ホール 福井市西院4丁目202-1 電話077-1111</p> <p>当事者 山田 真由美 氏 支援者 鬼頭 史樹 氏</p> <p>入場 無料</p>	<p>ドクター六郎が、 やってくる!</p> <p>集落講演会 3・10 松原先生のお話の会 「認知症の基礎知識—2025年に向けて」</p> <p>みなさま 3月10日(土) 集落(集落、5ヶ所)で、松原六郎先生が 講演して下さることに決まりました。</p> <p>3月17日(土) 13時~14時 場所 若狭区新法センター 主催 若狭・認知症リンクワーカー樹の輪 後援 若狭区、若狭福祉会</p> <p>3月17日(土) 14時20分~15時20分 場所 若狭区新法センター 主催 若狭・認知症リンクワーカー樹の輪、とらの会 後援 若狭区、若狭福祉会</p>
---	--	---	---

キャラバンメイト交流会 近藤英男氏 リンクワーカー樹の輪 伊藤俊雄氏 福井市認知症講演会 山田真由美氏 集落講演会(リンクワーカー樹の輪) 松原六郎先生

本当に申し合わせたかのように「当事者の声」を聞く講演会が連続して開かれました。
 (*キャラバンメイト交流会は大雪のため中止)

リンクワーカーの講演会で歯科医でもある副会長の田辺先生から「友人の歯科医は、患者さんの気持ちを知るため自分の歯を抜いている様々な義歯をつくり使い心地を確かめている。認知症の人の気持ちを理解するためには自分が認知症になればよいが、それは出来ないことであり、その代わりにご本人の話を聞かせてもらっている。」と閉会の挨拶がありました。



◆伊藤ご夫妻のお話から、「認知症の診断」という現実から受ける苦悶や、それを乗り越えようとする「気負い」感があまり見られなかったことが、ある意味不思議であり、一方で新鮮な感覚でした。

そうした、誰もがなり得る病気としての、新たな「認知症」観に気づきを得られる有意義な講演でした。(星)

◆物忘れが多くなり認知症の診断を受けた場合に、自分が大切にしている物や日ごろ使用している物の保管場所を奥様に伝えておくことはとても賢明な方法だと思った。

また、みんながこのご夫婦の様に相手を信頼して自分の大切な物を預けることが出来たら「物盗られ妄想」という言葉は減少するのではないかと思います。

◆伊藤さんの、「記憶は預ける」という言葉が心に残りました。

診断を受け、ご本人は不安と恐怖を感じ、奥様は安心したと言われていました。ご本人さんの不安は「記憶」を奥様に預けるという形で軽減されました。

闘ってもよいことはない、認知症と仲良くつきあっていこうという前向きな気持ちが、仲間を作り、居場所を作り、伊藤さんと支援者の方の活動が行政を動かし「新たな社会」をつくることにつながったのだと思います。

認知症と診断されても前向きに考えられる社会にするために、自分ができることはなんだろうと考えさせられました。

(山川) (安江)

福井市認知症講演会 3月3日 福井県自治会館の多目的ホール

名古屋市在住の当事者である山田真由美さんとパートナーの鬼頭史樹さんをお招きし「若年性認知症の本人から わたしの思い そして伝えたいこと」というテーマでご本人の思いや活動を紹介していただきました。

- ◆山田真由美さんは名古屋市在住の57歳で、51歳の時に若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。本人・家族交流会での出会いを通じて、前向きな気持ちになり、現在は全国各地で講演活動を行っておられます。
- ◆とても明るく話をしてくださった山田さんですが、診断を受けたときは本当にショックだったそうです。当時、認知症に対して情報や知識もなく、不安でいっぱいだったと話されていました。
- ◆認知症になって鍵の開け閉めや、買い物の袋詰めが苦手になったそうですが、今は近所の人や行きつけのスーパーの人に自分のことや何に困っているかを伝えて、手伝ってもらえるようになり、とても生活しやすくなったそうです。
- ◆また、同じ女性の当事者の方との出会いも大きなきっかけになりました。困っていることが同じで、自分だけじゃないと分かり、できることをやろう、外に出ようという気持ちになったそうです。頑張っている当事者の人を知り、私も頑張らなくちゃという気持ちになり、元気になると話されていました。
- ◆講演の中では、視空間認知の障害で着替えに時間がかかることを話され、聴いている人に少しでも分かってもらえるようにと実際に上着を着る様子を実演で見せてくださいました。ちょっとサポートがあるだけでずいぶん違うと話されていました。
- ◆山田さんは名古屋市でキャラバンメイトとしてもご活躍されており、学校などで認知症サポーター養成講座を開催しています。また、おれんじドアの取り組みもされており、他の当事者の方の相談にのったり、地域の認知症専門部会の委員としても活躍されています。
- ◆名古屋市では若年性認知症本人・家族交流会「あゆみの会」が開催されています。毎回15名ほどのご本人が参加し、仲間づくりの場、情報交換の場、社会とつながる場になっています。定例会だけでなく、認知症カフェやサークル活動など、様々な活動を行っており、地元の中学生と野球をしたり、みんなでバス旅行に行ったり、ご本人がやりたいことを実現しています。
- ◆認知症になっても暮らしやすい町とはどんな街だろうかという質問に、山田さんはちょっとしたサポートが自然にでき、さりげなく助けてもらえる街、鬼頭さんは認知症の人も誰かの助けになり、支え合える街と答えられていました。
- ◆福井県でも若年性認知症の人と家族の会「ほや座くらぶ」を5年前から開催しています。参加者も徐々に増えてきて、最近では毎回ご本人8名、ご家族15名程度の参加があります。ご家族同士は最近の様子を話したり、介護の相談をしたりと情報交換の場になっています。ご本人同士が集まる機会にもなっているので、これまで以上にご本人が安心して参加できる場、思いを話せる場を目指して参加しているご本人・ご家族と一緒に取り組んでいきたいと思いました。



(福井県若年性認知症相談窓口 夏井絵美)

集落講演会「ドクター六郎がやってくる

認知症の基礎知識—2025年に向けて—

3月10日、松原先生の講演会が美浜町の久々子区と早瀬区でありました。

「集落」講演会、名前の通り集落単位の講演会で、1時から2時まで久々子区、2時30分から早瀬区。先生もかなり強行スケジュールでお疲れだったと思いますが、すごくわかりやすいお話で「目から鱗が落ちる」ような思いでした。

講演会内容の報告というより講演会に参加しての感想を書かせてもらいます。

講演内容は、ホームページ『福井心のクリニック』に掲載されています。

認知症であることをオープンに!!

まず、「認知症は恥ずかしい病気ではない。認知症という病気を風邪をひいたり、転んで捻挫をしたことと同じように考えて本人も家族もオープンにしてもらいたいと松原先生から話がありました。

先生のお話と同じように「オープンにすること」のテレビ番組が3月12日のNHK「あさイチ」でありました。(写真右)

認知症と診断されたあと認知症であることをオープンにした人としらない人では認知症の進行に大きな差があるといったデータも示されました。

リンクワーカー樹の輪の講演会講師の伊藤俊雄さんは、診断された後、認知症と闘わずオープンにして社会参加されています。そして、2012年2月に診断され、現在、要介護1で過ごされています。昨年、若年性のつどいで小浜へ来ていただいた曾根勝一道さんと奥さんはオープンにするまで6年間かかったとのことでした。

オープンにできないのは?

このことについて先生は、「オープンにできないのは、周りの人が認知症を正しく理解してくれないから」と話されました。

そして「テレビのリモコンは歩行が困難な人のために開発され、足の悪い人だけでなくみんなが便利になった」ということを例にして「認知症の人、障害者を正しく理解することが町をよくする。町のためになる。」と話されました。

障害者を正しく理解することが町をよくする。
このことについて先生から何度かお聞きしました



が、いまいそのことがよく理解できませんでした。今回の講演で自分なりに理解でき「目から鱗が落ちる」思いでした。

福井全研が目指すものを改めて示していただいた感じです。

福井震災の体験談集を作りたい

松原先生からこんな話を聞かされ、何故という疑問がいつも頭の中にありました。

しかし、今回の講演で認知症予防について回想法の話をお聞きし、迫正敏さんの「豪雪独楽吟」を思い出してその謎が解けました。

たのしみは三八・五六豪雪

いつもより多弁な話聞いたとき

今年の大雪の時、松原病院に入院中のお年寄りが「三八・五六豪雪」の思い出話に花を咲かせていた時の様子です。

今回の「福井全研イベント」ともいべき講演会から多くのことを学ぶことが出来、何か明るい光が差し込んできたように思います。

(坂田 稔)